

未来医療研究人材養成拠点形成事業 申請書

申請担当大学名 (連携大学名)	新潟大学 (新潟医療福祉大学, 新潟薬科大学) 計 2 大学		
テーマ	テーマB	申請区分	単独事業
事業名 (全角20字以内)	オール新潟による『次世代医療人』の養成		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵1枚)を【様式2】の後ろに添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉

従来から、超高齢社会の課題は、高齢化率の高い「地方」の課題を中心に議論されてきた。しかし、近年、10年20年後を見据えた、都市部における高齢化の問題がクローズアップされており、厚生労働省が所掌する「都市部の高齢化対策に関する検討会」において、「高齢化の問題は高齢化率の問題ではなく、高齢者の絶対数の問題である」ことや「総人口が減り高齢者が増え、現役世代が減る」ことなど、都市部に人口が集中したことに起因する課題が検討されている。また、急速な高齢化は日本だけの問題だけではなく、**日本が世界の主要都市に先んじて超高齢社会に直面している**ということはあまり知られていない状況であり、**日本が世界に先駆けてこの状況に取り組む必要がある。**

新潟大学では、従前から自治体と連携した研究プロジェクト(佐渡プロジェクト, 魚沼コホートスタディ等)により高齢化に関する課題解決に取り組むとともに、先の大学改革等推進経費において採択されたプログラム等を活用し、**多職種連携による地域医療の充実に取り組んできた。**しかし、①脳血管障害や認知症をベースとした誤嚥性肺炎等の増加や、東日本大震災後に注目された高齢者の生活不活発病によるADLの低下、②変容する高齢化社会の状況把握や分析の不足、③厚生労働省「健康日本21」でも取り上げられている「地域力(ソーシャルキャピタル)」の生活、健康への影響など、新たな医療課題への対応とともに、④介護との有機的な連携や在宅医療の推進等、解決すべき課題が浮き彫りにされてきている。**こうした中、高齢者ができるだけ長く元気に生活できる地域社会『健康長寿社会』が望まれており、それに対応するため「治す医療」だけでなく、「生活に寄り添い支える医療」の必要性が高まっている。**

〈事業の概要〉(400字以内厳守)

本プログラムでは、先の補助金において確立した多職種連携と、**医歯学総合病院としての強みを活かした医歯学連携による口腔ケア、保健学科や県内の医療系大学との多職種協働、地元自治体や医師会及び住民等と連携したオール新潟体制を事業基盤**とする。これにより幅広い総合診療能力に加えて機能維持、機能回復の視点による生活不活発病予防などの予防活動を学ぶ**卒前、卒後の一貫した実践プログラムを設定し、これを通じて超高齢化社会の住民を支え、『健康長寿社会』の実現に寄与する医療人を養成することを目指す。**新潟県の高齢化の現状は20年後の日本であり、今後急速に進む都市部の高齢化にいち早く取り組み、住民に寄り添うマインドや予防医療の視点、地域の課題に柔軟に対応する力を持ち地域医療のリーダーとして活躍する総合診療医の養成を行うことは、**日本の未来医療のモデル**となる。

②新規性・独創性

1)「元気な高齢者づくりを支えるための新しい医療:日本の未来にとって高齢者の増加(超高齢化)は避けられない課題である。そうした中で高齢者だけでなく、子どもや現役世代が元気に生きることのできる『健康長寿社会』の実現が必要となる。本プログラムにおいては、「健康ファイル」「連携ノート」など高齢化地域で既に利用されているツールによる住民参加の健康増進活動の効果と実践を学ぶとともに、口腔ケアや運動機能回復など多職種連携による健康維持活動の必要性や効果、誤嚥性肺炎や生活不活発病等の高齢者に対する新たな医療課題への対応について実践的に学ぶことで、高齢者への「治す」医療に対応するだけでなく、次の高齢化世代である現役世代や子ども世代を含めて予防的視点から必要な医療支援を行うなど、全ての世代の住民が元気に生きるための「生活に寄り添い支える医療」を行う総合診療医を養成する。

2)新潟県の多様性を活かした実践的教育:新潟県の高齢化率は県全体で26.4%(平成23年10月)に達し、更に進んでいくことが予想されている。高齢化率は各自治体の差異が著しく多様性に富んでいる。中山間地域では日本の高齢化を20年先取りしているといわれ、特に高齢化の進んだ自治体では高齢化率40%を越えたところも見られる。この新潟県の多様性を活かして、超高齢社会やこれから高齢化が問題となる都市部など高齢化率の異なる地域で学ぶことが可能となる。また、離島や豪雪地域、中山間地域や都市部など、地勢の異なる地域で学ぶことが可能となる。こうしたことから、地域ごとに異なるニーズや異なる課題に実際に触れることで、個々のニーズを関知し、対応できる医療人が養成される。

3)オール新潟による教育の実施:新潟大学では、先の大学改革等推進経費において採択されたプログラム等を活用し構築した多職種連携と、医歯学総合病院における医歯学連携体制を活用し、高齢化諸問題に対応するオール新潟の教育体制を構築する。例えば、口腔ケアの必要性や実践に関しては本学歯学部教員や歯科衛生士、新潟医療福祉大学の言語聴覚士等と連携し、在宅服薬指導に関する教育については新潟薬科大学、リハビリテーションによる機能維持・回復に関する教育については新潟医療福祉大学と連携する。このオール新潟体制によって、本学医学部が有しない分野についても実践的な教育が可能となる。

4)変容する高齢化社会をリサーチする:本プログラムではGIS(Geographic Information System)やソーシャルキャピタル、それらに関連する健康指標に着目したリサーチを行い、これら地域での高齢化の変化の予測や疾病の特徴把握により、ターゲットを絞り込むことが可能になる。また新潟大学が既に開始している佐渡市における新潟大学佐渡プロジェクト、魚沼地域におけるコホート研究等にも参加することを前提とし、リサーチの醸成をサポートする。これらによってICT(GISなど)を駆使して超高齢社会をリサーチする能力を持ち、地域におけるニーズや課題の変化に対応可能なリサーチマインドを持つ総合診療医(自治体等が策定する地域の医療施策への参画を可能とする等)が養成される。

③達成目標・評価指標

本プログラムにより、卒前教育においては医学科に次世代医療人養成コース「プライマリコース」を、卒後教育においては医歯学総合病院(初期研修医)、医歯学総合研究科(後期研修医/大学院生)に次世代医療人養成コース「アドバンスドコース」を設定する。

次世代医療人養成コース「プライマリコース」においては平成25年度2名、平成26年度以降年間5名の参加を、また卒後教育「アドバンスドコース」においては平成27年度5名、平成28年度10名、平成29年度には後期研修医/大学院生も含めて15名の参加を予定する。

また後期研修医では大学院への社会人入学も可能として新潟大学地域卒業生等を念頭に年5名ずつの入学を予定する。

「アドバンスドコース」に参加した後期研修医は、平成29年度から変更される専門医制度に則り、平成31年度以降、総合診療専門医を年間5名取得していく。

④医学生・男女医師のキャリア教育・キャリア形成支援 (※取組がない場合は記入不要)

本プログラムでは、専門医の在り方検討会で答申が出され、平成29年度から開始される予定の新しい専門医制度における総合診療専門医養成プログラムとして認定されることを目指している。

本プログラムを履修することで、医学生は地域医療臨床実習におけるプライマリ・ケアを学ぶ。また卒後は、初期研修医であれば総合診療研修、地域医療研修を研修し、後期研修医であれば本プログラム「アドバンスドコース」を修了し、専門医試験を受験、合格することで総合診療専門医を取得できる。

本プログラムを整備することで魚沼基幹病院等の地域医療機関と連携して病院群を形成し、大学病院単独では取得することが難しくなる総合診療専門医研修プログラムを設定できるようになる。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の実施体制

本プログラムの教育支援組織の構成

新潟大学では、先の大学改革等推進経費において採択されたプログラム等により既にオール新潟の体制を構築している。そこに本プロジェクトでは新たに次世代医療人育成センターを設置し、専任教員、事務職員を置くことでプログラムの推進に対応する。

〈1〉次世代医療人育成センター:新潟大学の医歯学連携のもと、新潟大学医歯学総合病院内に次世代医療人育成センターを設置する。センターでは医学部および歯学部の各診療科、歯科衛生士、更に言語聴覚士などの連携により、口腔ケアに関する講義、実習、研修などを担当する（プライマリコース、アドバンスドコース）。

〈2〉新潟医療福祉大学、新潟薬科大学:新潟医療福祉大学、新潟薬科大学にそれぞれ次世代医療人育成アドバイザーを置き、新潟医療福祉大学は口腔ケア対策、生活不活発病対策の教育に、また新潟薬科大学は訪問服薬指導など在宅医療に関わる教育に参画する（プライマリコース、アドバンスドコース）。

〈3〉地元自治体・地元医師会:地元自治体、地元医師会にそれぞれ次世代医療人育成アドバイザーを置く。その上で地元自治体・地元医師会はICT（GIS）などを駆使したソーシャルキャピタルに関する健康調査などを行う際に協力する。また、次世代医療人ワークショップとフィールドワークでは、フィールドワークを行うフィールドとなり、「生活に寄り添い支える医療」を実際に学ぶ現場となる（プライマリコース）。さらに、これら自治体・医師会などと連携して「予防」「機能回復」をテーマとしたナイトスクールなどを行う（プライマリコース、アドバンスドコース）。

〈4〉新潟医療人育成センター:新潟県が地域医療再生計画により整備する新潟医療人育成センター内には、シミュレーションセンターがある。次世代医療人育成センターが調整することより医学生、研修医は、これらを用いてシミュレーター学習を行う（プライマリコース）。また高齢者に多い、心血管呼吸器疾患に対応した高度シミュレーターによる研修を行う（アドバンスドコース）。

〈5〉魚沼基幹病院（魚沼地域医療教育センター）:平成27年度に開院予定の魚沼基幹病院に新潟地域医療推進機構による総合診療医の養成を目的とした新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター（寄附講座）が開設されることから、連携体制を構築することで本事業を推進するための拠点として活用する（アドバンスドコース）。

〈6〉佐渡プロジェクト、魚沼コホートスタディ:新潟大学が既に佐渡市で展開している「新潟大学佐渡プロジェクト」、魚沼市で展開している「魚沼コホート研究」に参画しリサーチマインドを醸成する（プライマリコース、アドバンスドコース）。

(2) 連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

新潟大学医学部医学科及び新潟大学医歯学総合病院は、医歯学連携体制の下に次世代医療人育成センターを設置し、専任教職員を配置し活動全体を統括する。

新潟大学歯学部歯学科、歯学部口腔生命福祉学科は、口腔ケアに関連するプログラムに関わり、新潟大学医学部保健学科、新潟医療福祉大学、新潟薬科大学は、生活不活発病の予防教育、寄り添う医療の教育などに関する。

新潟県内の地元自治体についてはソーシャルキャピタルの調査などに際し、必要な情報を提供してもらい、また医療系学生の実習や研修医の研修フィールドとなる。

地域医療機関、医師会、歯科医師会は医療系学生の実習や研修医の研修に関して役割を担う。

メリットとしては連携を密にしていくことで、医学科を含む医療系学生や研修医との交流が盛んになり、彼らが卒業・研修終了後に活動の場として当該医療機関を選択してくれる可能性が広がる。

(3) 事業の評価体制

1) 教育プログラムの評価

本プログラムを効果的に実践するためには、**具体的かつ信頼性のある評価**が必須である。評価方法として①高齢化地域における医師数による評価、②予防活動を理解・実践し、リサーチマインドを持った総合診療専門医数による評価、③対象とする医療系学生、初期/後期研修医、教育スタッフによる評価、④超高齢化先進地域及び途上地域の住民による評価が必要と考えられる。しかし①及び②に関しては、長期的な視点に立った評価が不可欠である。本プログラムの実施期間を想定した場合、③による評価が妥当で初年度から可能であり、毎年度プログラム実施前と実施後に、Visual Analog Scale(VAS)による満足度を含めたアンケート調査を行う。さらに④に関してはそれぞれの地域の住民を対象として、地域住民、地元医師会、行政機関の協力の下アンケート調査を実施し、評価を行う。これらの評価を実施することにより、本プログラムの有効性を明らかにする。

2) ソーシャルキャピタルなど健康に影響ある因子の測定による評価

本プログラムでは、ソーシャルキャピタルの測定など、超高齢地域を含めた県内の多様な地域における社会的な指標を検討し、この中のどういった因子がこれら地域における健康に寄与しているか評価・検証していく。これらの結果を、様々な機会を捉えて発表、公開していくことで、プログラムによるリサーチの有効性を明らかにする。

(4) 事業実施計画

25年度	① 9月 新潟大学医歯学総合病院内に実施主体となる「次世代医療人育成センター」を開設、専任の教職員を配置、協力大学でもプログラム実施に関する、次世代医療人育成アドバイザーを選任 ② 10月 プライマリコースにおける県内高齢化先進地域におけるソーシャルキャピタルに関する調査を実施 ③ 1月 ソーシャルキャピタルの結果解析を行うとともに次世代医療人育成センター会議、「介護予防」をテーマとした講演会を開催 ④ 3月 プライマリコースとして次世代医療人育成センターが主体となって新潟大学、協力大学の医療系学生を対象として「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を開催 ⑤ 3月 新潟大学内にアドバンスドコースに用いる後期研修医用の各種シミュレーターを購入・設置
26年度	① 4月 プライマリコースとして新潟大学地域枠の医学生を中心とした疾病予防、健康増進及び介護予防活動に関心ある医療系学生に「超高齢社会」や「予防活動」をテーマとした講演会を実施 ② 4月 医学科と他の学部・医療系大学間の多職種連携実習の検討を開始 ③ 8月 プライマリコースとして次世代医療人育成センター及び、協力大学の協力により医療系多職種学生による「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を継続して実施 ④ 10月 プライマリコースとして阿賀町、魚沼市などでソーシャルキャピタルに関する調査を継続して実施 ⑤ 1月 プライマリコースとして卒後、新潟県内での勤務を義務づけられた新潟県関連地域枠医学生（新潟大学地域枠医学生、自治医科大学学生、新潟県県費修学生）等を対象に、「生活モデル」をテーマとした講演会を開催 ⑥ 3月 プライマリコースとして次世代医療人育成センターが主体となって協力大学の医療系学生を対象として「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を継続して実施
27年度	① 4月 プライマリコース、アドバンスドコースとして疾病予防、健康増進及び介護予防活動に関心ある医療系学生・研修医を対象に「超高齢社会」や「予防活動」をテーマとした講演会を実施 ② 4月 医学科と他の医療系大学・学部の多職種連携実習を継続して検討 ③ 4月 アドバンスドコースとして、研修医が臨床研修病院で総合診療研修を開始 ④ 8月 プライマリコースとして次世代医療人育成センター及び、協力大学の協力により医療系多職種学生による「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を継続して実施 ⑤ 10月 プライマリコースとして阿賀町、佐渡市、魚沼市などでソーシャルキャピタルに関する調査を継続して実施 ⑥ 1月 プライマリコース、アドバンスドコースとして卒後、新潟県内での勤務を義務づけられた新潟県関連地域枠医学生（新潟大学地域枠医学生、自治医科大学学生、新潟県県費修学生）等を対象に、「口腔ケア」の視点を育てるための講演会を開催 ⑦ 3月 プライマリコースとして次世代医療人育成センターが主体となって協力大学の医療系学生を対象として「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を継続して実施

28年度	<p>① 4月 全ての医学科1年次学生を対象として「超高齢社会」や「予防活動」をテーマとした授業を実施</p> <p>② 4月 全ての医学科5年次学生が必修とする臨床実習Iにおいて、介護保険主治医意見書の記載を必修化し、その外にも口腔ケアチームでの活動を必修化</p> <p>③ 4月 医学科と他の医療系大学・学部が多職種連携実習を継続して検討</p> <p>④ 4月 アドバンスドコースとして地域医療機関において後期研修医あるいは、既に専門医として活動してきた医師が再び総合診療を目指す場合などのための、総合診療専門医研修プログラムの募集開始</p> <p>⑤ 7月 アドバンスドコースとして初期研修医が2年目研修医として地域医療機関で地域医療研修を開始</p> <p>⑥ 8月 プライマリコースとして次世代医療人育成センター及び、協力大学の協力により医療系多職種学生による「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を継続して実施</p> <p>⑦ 10月 プライマリコースとして新潟県内の地域医療機関でソーシャルキャピタルに関するアンケートを継続して実施</p> <p>⑧ 1月 プライマリコースとして新潟県内での勤務を義務づけられた新潟県関連地域枠医学生（新潟大学地域枠医学生，自治医科大学学生，新潟県費修学生）等を対象に、「生活不活発病」の視点を育てるための講演会を開催</p> <p>⑨ 3月 プライマリコースとして次世代医療人育成センターが主体となって協力大学の医療系学生を対象として「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を継続して実施</p>
29年度	<p>① 4月 アドバンスドコースとして総合診療専門医研修プログラムを開始</p> <p>② 4月 引き続き全ての医学科1年次学生を対象として「超高齢社会」や「予防活動」をテーマとした授業を実施</p> <p>③ 4月 引き続き全ての医学科5年次学生が必修とする臨床実習Iにおいて、介護保険主治医意見書の記載を必修化し、その外にも口腔ケアチームでの活動を必修化</p> <p>④ 4月 医学科6年次学生を対象とした臨床実習IIにおいて、高齢化先進地域において総合診療を学ぶコースを開設</p> <p>⑤ 4月 新潟大学歯学部歯学科，医学部保健学科，新潟薬科大学，新潟医療福祉大学の学生にも高齢化先進地域での地域医療臨床実習のコースを開設し，医学科学生と連携教育を開始</p> <p>⑥ 8月 プライマリコースとして次世代医療人育成センター及び，協力大学の協力により医療系多職種学生による「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を継続して実施</p> <p>⑦ 1月 全ての医学生を対象に「生活モデル」「疾病予防・介護予防」をテーマとした講演会を開催</p> <p>⑧ 3月 プライマリコースとして次世代医療人育成センターが主体となって協力大学の医療系学生を対象として「次世代医療人ワークショップとフィールドワーク」を継続して実施</p> <p>⑨ 3月 「次世代医療人育成センター」の5年間の活動を評価し，次世代の活動へ繋げるためのシンポジウムを開催</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	新潟大学医学部
プログラム・コース名	次世代医療人養成コース 「プライマリコース」
対象者	医学生
修業年限（期間）	3年
養成すべき人材像	変容し多様化する超高齢社会にあって問題となる誤嚥性肺炎や生活不活発病をターゲットとした機能回復・予防活動に関する知識を持ち、更にリサーチを通して超高齢社会を俯瞰し、疾病予防、介護予防の重要性を理解し、それらに対してどう対応していくかを自ら考えることのできる人材である。
修了要件・履修方法	医学科4年次学生時の医学研究実習で次世代医療人育成センターが実施するリサーチを選択し、定められた期間、実習を行い、その結果を日本国内の各種学会で発表する。 また次世代医療人育成センターが主催するワークショップとフィールドワークに参加する。
履修科目等	<p><必修科目> ナイトスクール（2単位）、住民教育活動（2単位）、次世代医療人育成ワークショップとフィールドワーク参加（1単位）、医学研究実習（8週間）、医療人育成センターにあるシミュレーターを用いた実習（2時間）</p> <p><選択科目> 生活モデルをテーマとした講義聴講（2単位）、誤嚥性肺炎や生活不活発病に関する講義聴講（2単位）、地域包括ケアに関する講義聴講（2単位）、口腔ケアチームへの帯同実習（2単位）</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>1) 超高齢社会に必要な機能回復・予防の視点を学ぶ 本プログラムでは新潟大学医歯学総合病院であることの強みを生かして、医歯学連携の体制のもと口腔ケアを学ぶ。院内の口腔ケアチームへ帯同し、口腔ケアの実際を学ぶ、また関連する講義を受ける。その外に生活不活発病に関してはリハビリ部門との協働について講義を受けたり、多様な地域における健康づくり活動へ参加する。</p> <p>2) 変容し多様化する超高齢社会をリサーチする 新潟県中山間地における高齢化は全国に比し20年先取りしている。県内には既に超高齢社会に突入した地域を数多く抱えており、それらの地域では高齢化率が40%を越える自治体もある。一方、同じ県内であっても県都新潟市などの都市部においてはこれから高齢化率の進展が見られると予想されている。これら多様な社会をフィールドとして、ソーシャルキャピタル等を指標として活用しながら超高齢社会に向かって必要とされるリサーチを行う。また既に佐渡市で展開している「新潟大学佐渡プロジェクト」、魚沼市で展開している「魚沼コホート研究」へも参加し、臨床研究を学びリサーチマインドの醸成を行う。</p>

指導体制	<p>1) 機能回復・予防的視点を持つ医療人 次世代医療人育成センターを中心に医歯学連携体制を整え、誤嚥性肺炎や生活不活発病などへの予防的対応についてはそれぞれセンターの専任教員、あるいは次世代医療人育成アドバイザーが指導する。 超高齢社会の実際を見学する際には地元自治体、医師会における次世代医療人育成アドバイザーの協力の下、地域での医療機関での見学・実習なども含めて、指導できる体制を整える。</p> <p>2) 医学研究実習 本プログラムでは次世代医療人育成センター教員が、実際に様々な地域において、ソーシャルキャピタルや高齢化の進展に関わるリサーチを行う予定である。医学研究実習を選択した医学生は、それらの教員の指導のもとに、各種リサーチに関わる。また既に佐渡市で展開している「新潟大学佐渡プロジェクト」、魚沼市で展開している「魚沼コホート研究」などにも次世代医療人育成センターを介して関わる。</p>						
受入開始時期	平成25年10月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生	2	5	5	5	5	22
	大学院生	0	0	0	0	0	0
	後期研修医	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0
	計	2	5	5	5	5	22

教育プログラム・コースの概要

大学名等	新潟大学医学部
プログラム・コース名	次世代医療人養成コース 「アドバンスドコース」
対象者	初期研修医および後期研修医
修業年限（期間）	5年
養成すべき人材像	変容し多様化する超高齢社会にあって住民に寄り添い、誤嚥性肺炎や生活不活発病をターゲットとした機能回復・予防活動を実践できる医療人。そして更にリサーチを通して超高齢社会を俯瞰し、その中で疾病予防、介護予防の重要性を理解し、それらに対してどう対応していくかを自ら考え、実践する能力を持つ総合診療医である。
修了要件・履修方法	臨床研究を行いつつ、臨床研修を重ね、総合診療専門医を取得する。
履修科目等	<p><必修科目> ナイトスクール（2単位）、住民教育活動（2単位）、多職種連携による研修（2週間）、高齢化地域における診療（中小規模病院もしくは診療所における診療および在宅医療も含む）に従事（6か月）、口腔ケアチームに所属しての診療に従事（1ヶ月）、生活不活発病に関する診療活動に従事（2ヶ月）、高齢者疾患、特に心血管呼吸器疾患に対応したシミュレーター研修（4単位）</p> <p><選択科目> 生活モデルをテーマとした講義聴講（2単位）、ソーシャルキャピタルに関する講義聴講（2単位）、地域包括ケアに関する講義聴講（2単位）</p>
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	<p>1）超高齢社会に必要な機能回復・介護予防の視点を学ぶ 本プログラムでは新潟大学医歯学総合病院であることの強みを生かして、医歯学連携のもと口腔ケアを学ぶ。院内の口腔ケアチームへ帯同し、口腔ケアの実践を学び、また関連する講義を受ける。その外に生活不活発病に関してはリハビリ部門との協働について講義を受け、多様な地域において地元医師会や自治体の主催する健康づくり活動等へ積極的に参加する。これら実践を通じて超高齢社会のニーズに対応し介護予防の視点を持った医療人を養成する。</p> <p>2）変容し多様化する高齢化社会をリサーチする 新潟県中山間地における高齢化は全国に比し20年先取りしている。県内には既に超高齢社会に突入した地域を数多く抱えており、それらの地域では高齢化率が40%を越える自治体もある。一方、同じ県内であっても県都新潟市などの都市部においてはこれから高齢化率の進展が見られると予想されている。これら多様な人口構成と多彩な地勢を持つ地域を同一県内に有し、かつ一医科大学がこれら双方と綿密の連携が取れていることが本県の特徴である。これら多様な社会をフィールドとして、ソーシャルキャピタル等を指標として活用しながら超高齢社会に向かって必要とされるリサーチを行う。また既に佐渡市で展開している「新潟大学佐渡プロジェクト」、魚沼市で展開している「魚沼コホート研究」へも参加し、臨床研究を学びリサーチマインドの醸成を行う。</p>

指導体制	<p>1) 総合診療医 次世代医療人育成センターを中心に医歯学連携体制を整え、誤嚥性肺炎や生活不活発病などへの予防的対応についてはそれぞれセンターの専任教員（歯科衛生士を含む）、協力大学の教員（言語聴覚士などを含む）あるいは次世代医療人育成アドバイザーが指導する。 「健康ファイル」や「連携ノート」といったツールに関しては、それらを実際に使用している医療機関での利用なども含めて、指導できる体制を整える。その上で、新潟県内の地域医療機関、総合診療医専門医プログラムを設定してある医療機関において従事しつつ、専門医取得に必要な経験、症例を積み重ねていく。</p> <p>2) 医学研究 医学生時代に本プログラムに関わってきた初期研修医・後期研修医にあっては更にアドバンスドのコースとして、新潟大学大学院医歯学総合研究科の各講座に大学院生・社会人大学院生として加わることにより自らリサーチのテーマを決めてリサーチを進めるように体制を整備する。 またこれまでリサーチを経験してこなかった初期研修医・後期研修医に対しても次世代医療人育成センター所属の研究生として、ソーシャルキャピタルに関するリサーチに関わる機会を提供する。また既に展開している「新潟大学佐渡プロジェクト」、「魚沼コホート研究」へも次世代医療人育成センターを介して関わる。</p>						
受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学生	0	0	0	0	0	0
	大学院生	0	0	0	0	0	0
	後期研修医	0	0	5	10	10	25
		0	0	0	0	5	5
	計	0	0	5	10	15	30



オール新潟による『次世代医療人』の養成

超高齢化社会の課題

- ・高齢者疾患の増加 とくに誤嚥性肺炎や生活不活発病など
- ・変容する高齢化社会の状況把握や分析の不足
- ・厚労省「健康日本21」でも取り上げられているソーシャルキャピタルなどの社会指標と地域の健康水準との関連は未知数
- ・「治す医療」から、「生活に寄り添い支える医療」へのニーズの拡がり

新潟県の地域的メリット

多様な地勢

豪雪地・離島・平野部・山間地から都市部まで広がる多様なフィールド

明日の日本を映す鏡

・高齢化率40%!!
・超高齢化を20年先取りする中山間地
・これから高齢化する都市部など多様性ある人口分布

人的資源

- ・新潟大学地域枠医学生(12名/年)等
- ・疾病予防、健康増進および介護予防活動に関心を持つ医療系学生
- ・総合診療医を目指す初期/後期研修医

オール新潟:人だけでなく多様な地域、組織、職種も含めた連携

新潟大学医歯学連携 次世代医療人育成センター

- ・医歯学連携、歯科衛生士、言語聴覚士等の連携による口腔ケア対策を学ぶ(プライマリ、アドバンスドコース)
- ・口腔ケアチームへの帯同実習(プライマリコース)
- ・リハビリ科、理学療法士との連携による生活不活発病予防への対処(プライマリ、アドバンスドコース)

新潟医療福祉大学 新潟薬科大学

- ・訪問服薬指導、訪問リハビリなど在宅医療に関わる分野も経験し、地域に寄り添い支える医療を学ぶ(プライマリコース)

次世代医療人 養成コース

H26年度以降5名/年

医学科
プライマリコース(3年間)

H28年度以降10名/年

初期・後期研修医・大学院生
アドバンスドコース(5年間)

予防的視点・機能回復そしてリサーチマインドを兼ね備え、「健康長寿社会の実現」に寄与する総合診療専門医

『次世代医療人』の養成

地元自治体 住民

・「健康ファイル」「連携ノート」などを通し「生活に寄り添い支える医療」の実践教育(アドバンスドコース)

- ・「疾病・介護予防」「機能回復」をテーマとしたナイトスクールなど展開(プライマリ・アドバンスドコース)
- ・ICT(GIS等)を駆使したソーシャルキャピタルに関する健康調査(プライマリコース)

- ・学生時代からコホートスタディに関与することでリサーチマインドを醸成する(プライマリコース)
- ・疫学リサーチを卒後も継続し、大学院の社会人入学も可能とする(アドバンスドコース)

佐渡プロジェクト 魚沼コホートスタディ

新潟県 地域医師会

- ・医学教育
- ・医師確保等の面で緊密に連携

新潟医療人育成センター (シミュレーションセンター)

- ・シミュレーター実習(プライマリコース)
- ・高齢者疾患、特に心血管呼吸器疾患に対応したシミュレーター教育(アドバンスドコース)

魚沼基幹病院 魚沼地域医療教育センター

- ・二次医療圏内の病院群を形成して総合診療専門医の養成プログラムを開発(アドバンスドコース)
- ・超高齢地域における診療従事(アドバンスドコース)